

日本カメラ博物館講演会

ポラロイド写真が残したもの

講師：河野和典氏(スタジオレイ)、ドクター・アンド(エーパワー)

2011年1月22日(土)

参加者募集

日本カメラ博物館では、2010年11月30日(火)～2011年3月27日(日)に開催予定の特別展「ポラロイド・カメラ展」に関連し、来る2011年1月22日(土)に、元日本カメラ編集長でスタジオレイの河野和典氏と元日本ポラロイド社産業映像部長で、現在エーパワー社代表取締役のドクター・アンド氏を迎えて、講演会「ポラロイド写真が残したもの」を二部構成で開催いたします。

ポラロイド写真システムは、米国ポラロイド社の創始者であったエドウィン・H・ランド博士が1948年に写したその場で見られる「ワンステップフォトグラフィー」として発売したことに始まりますが、その独創的なフィルムに加え、オートマチック100(1960年)や SX-70(1972年)のカメラメカニズムは、その後の日本のカメラ作りにも大きな影響を与えました。しかし2001年にデジタル化の流れで経営破たんし、2008年にはインスタントフィルムの製造から撤退しました。しかし忘れてはならないのは、ポラロイドは多くの写真家に使われてたくさんの作品が残されたことです。さらにポラロイドカメラは、いまでも若者たちに人気のアイテムですが、その魅力はという2つの視点で、ご講演願います。

【第一部】「ポラロイドに魅せられた人と作品」…………… 河野和典

デジタルカメラ時代の今にあっては、撮った写真をすぐその場で見られるというのはごくあたりまえのことですが、およそ60年前にそれを初めて可能としたのがポラロイド・インスタント写真システムでした。ポラロイド・コーポレーションの創始者エドウィン・H・ランド博士が自分の幼い娘を撮影したとき「どうして写真は、すぐ見られないの？」とつぶやかれて研究開発したというエピソードはとても有名ですが、そこで彼が開発した製品は極めて独創的で、革命的といえるほど画期的な写真システムでした。それはモノクロームのピールアパート方式カメラとフィルムから出発し、カラーへ移行、さらにはモノシートフィルムとカメラへと発展し、SX-70と最終段階のSLR680では、自動露出をはじめソナーオートフォーカス、オートストロボ機能を搭載した全自動の、しかも折りたたみ式一眼レフカメラとして登場し「魔法のカメラ」とも呼ばれました。

このような魅力溢れるポラロイドには多くのプロ・アマ、ジャンルを問わず、老若男女が集い、必然的に多くの傑作写真が残されることとなりました。今回、それら多くの傑作写真の中から、日頃あまり目にすることのない作品の数々を、内外を問わず、できる限りご紹介いたします。

【第二部】「現代の若者とポラロイド写真」…………… ドクター・アンド

ポラロイド社のカメラは、シャッターを押せばプリントが自動的に飛び出してくる、現像される SX-70 を頂点に、今もなおこれらインスタントカメラが若い人たちに人気なのはなぜだろうかという魅力に迫ります。ドクター・アンド氏は、日本ポラロイド社に勤務時代、押し寄せる電子化の波のなかで、インスタント写真を使ったホビーとしての写真を若い人たちに向けて数々提案をしてきました。ホルガ by ポラロイド、ピンホール 80 などですが、ある意味現在の日本におけるトイカメラブームの仕掛け人でもあります。ここでは、ポラロイド社が終焉に向かった要因を直接の当時の担当者として分析すると同時に、現代の若者においてインス

タント写真がいかに楽しまれてきたか、などを幅広く紹介していただきます。

つきましては、本講演会の参加者募集について貴紙にてご紹介下さいますようお願い申し上げます。
なお、開催概要は以下のとおりです。

[開催概要]

タイトル	日本カメラ博物館講演会「ポラロイド写真が残したもの」
講師	第一部：河野 和典（こうの かずのり）、
講師	第二部：ドクター・アンド（安藤芳浩:あんどう よしひろ）
日時	2011年1月22日（土曜日）午後1時～4時（12時30分開場予定）
場所	東京都千代田区一番町25番地 JCIビル 6階会議室 （日本カメラ博物館隣 東京メトロ半蔵門線半蔵門駅下車 4番出口より徒歩1分）
申込方法	電話にて受付、または日本カメラ博物館にて直接受付 ※要予約 お申し込み先: 日本カメラ博物館 電話:03-3263-7110
定員	150名（座席指定なし）
参加料	300円（博物館入館料込み 日本カメラ博物館友の会会員・フォトサロン友の会会員は無料）
関連展示	「ポラロイド・カメラ展」2010年11月30日～2012年3月27日まで

河野 和典（こうの かずのり）

1947年鳥取県生まれ。70年中央大学4年のときに(株)日本カメラ社入社。71年より月刊『日本カメラ』編集部。99年から04年まで『日本カメラ』編集長。月刊誌およびMOOK 編集のかたわら『名機を訪ねて』(那和秀峻著)、『レンズ汎神論』(飯田鉄著)、『目からウロコ』(杉浦康平、若桑みどり、筑紫哲也、上野千鶴子、森村泰昌、池澤夏樹、石川好、竹村和子、中沢新一、小森陽一 共著)などの単行本を編集。2008年8月独立、写真よろずプロダクション(株)スタジオレイを同年10月設立、代表。2009年1月中里和人写真集『ULTRA』を制作・出版、2010年11月『新山清写真集 vol.2 ソルントン時代』を編集。現在『写真年鑑』を毎年、編集・制作・発行する。日本カメラ社編集顧問、歴史的カメラ審査委員、2007年より林忠彦賞選考委員。

ドクター・アンド（本名:安藤 芳浩）

1958年埼玉県生まれ 早稲田大学商学部卒業、日本ポラロイド株式会社にて17年勤務、2001年5月より産業映像部長、在職中にHolga by Polaroid (POLGA 1型、2型、3型)、Pinhole-80等インスタントフィルムを使用するトイカメラを開発。2005年4月株式会社エーパワー設立、同社代表取締役。独立後、Holgaroid (=PolgaSun4)、Fisheye for HOLGA、Pinhole-100等を開発。

本件に関する問い合わせ先
日本カメラ博物館 03-3263-7110
担当:山本・島貴・宮崎